

# 地域の助け合いのカタチ コスモステージ荒川遊園自治会 生活お助け隊

## 同じマンションに住む方々の助け合いの気持ちから生まれた「生活お助け隊」

「生活お助け隊」は、平成23年度にマンションの大規模修繕工事を契機に発足しました。工事にあたり、各家庭のベランダに置いてある植木鉢等の荷物を中庭に移動しなければならなかったのですが、住民の中には荷物の移動が困難な方もいるのではないかとということで、手助けをしてくださる方が集いました。そのメンバーをもとに、自治会環境衛生部の下部組織として設立されたのが「生活お助け隊」です。

現在15名の協力員が登録しており、管理人さんを窓口として、マンション住民から寄せられる「車いすを借りたい」「粗大ゴミや新聞紙、段ボールを出してほしい」「トイレや浴室の電球を取り替えてほしい」等の依頼に対して、原則2人1組で訪問し、器具等の実費は除き、無料に対応しています。また、今年度の11月から毎月第3金曜日に集会室で、誰かにお話を聞いてもらいたい方たちが集まれる「生活お助け隊サロン」も開催しています。

住民同士が気軽に声を掛け合い、助け合うことで、つながりができ、安心・快適なマンション生活が過ごせるよう活動しています。



## キラリ☆地域人

まつお ひろし  
**松尾 博** さん



荒川区高年者クラブ連合会東尾久支部大門長生寿会の会長として、また民生委員・児童委員として活動する松尾博さんに、地域にかける思いをお伺いしました。

『責任者を明確に決めて、責任を持って対応していただくというのは人材育成という観点からも大事なこと』

大門長生寿会ではラジオ体操や太極拳、尾久の原公園のゴミ拾いなど活動ごとに責任者を決めています。会長が段取りをつけてすべてコントロールするのではなく、メンバーの皆さんが、よく話し合いながら楽しく活動をしていくというのが一番大事だと思っています。

『人間の絆の強い地域ほど、幸福感や充実感が高まっていくと思う』

このエリアの課題を一挙に改善しようとしてもそう簡単にはいかない。人のつながりが強くなれば、環境面での課題なども随分改善できると考えています。尾久消防署の方のお話でこのエリアは、東京都で2番目に火災発生の頻度が低いそうです。消防署の様々な取り組みの成果もあると思いますが、ゴミを出すルールの徹底化など、私はこの地域の人のつながりが反映されているとも思っています。

## 『朝のあいさつ運動。一日百人とやってみよう』

尾久の原公園で毎朝ゴミ拾いをやりながら、挨拶をしようということになりましたね。朝5時半から6時半の時間帯におそらく150人位は尾久の原にいらっしゃるんですよ。しばらく、あいさつを返さなかった方でもこちらからあいさつを続けるうちに、あいさつを返されるようになった方が多い。挨拶はコミュニケーションの出発点だと思う。

民生委員や高年者クラブの活動で家庭に伺ってもまず“あいさつ”から。知らない方と知り合いになる第一歩が“あいさつ”。意外とあいさつは深いものだなと最近思うようになりました。



## いき いき 粋・活サロンで多世代交流&多文化講座!

西尾久ふれあい館で毎月2回、第1・4火曜日に行っている「ふれあいカフェ」で、多文化について学ぶ、「世界の国からこんにちは」講座を開催しました! 「ふれあいカフェ」では、健康講座や写真立てづくりなど毎回様々なプログラムを行っています。今回は初めての試みとして、ふれあい館に遊びに来ていた10人程の子どもたちも一緒に参加しました。

講師として、荒川区国際交流協会の山浦さんをお呼びし、荒川区に住む外国人数などのクイズを行うと荒川区にたくさんの外国人が住んでいるのを知って、子どもたちだけでなく参加者の皆さんもとても驚いていました。また、山浦さんは中国出身ということもあり、中国の紹介や中華料理の話、中国語漢字クイズなどを行ってくれました。漢字クイズでは、「米奇老鼠=ミッキーマウス」など馴染みのあるキャラクターの漢字表現をみて子どもたちも大盛り上がりでした!

荒川区は東京23区の中で、外国人住民の割合が3番目に高い区です。皆さんのお住まいの地域にも外国籍の方がいらっしゃるのではないのでしょうか?

同じ地域に暮らす多様な人たちを理解し合う、そんな素敵な時間。みなさんの地域でも取り組んでみませんか?



### 参加者からの言葉

参加者の方からは、「漢字は読めないけど発音してもらえると意味が分かった!」「同じマンションに中国の方がいるので、中国のお話を聞けてよかった」などの感想がありました。